

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



「ほめる」の元々の意味とは

いつも楽しく読ませていただいております。

ハンバーガーチャレンジ！

素敵な取組みですね！

英語初心者の息子が最近の発言の中に少しずつ英語が混じってきました。百玉そろばんも完璧ではありませんが英語で披露してくれます。さらに驚きなのは、ネイティブの綺麗な発音です。初心者にとって、英語を勉強ととらえず学べることは非常にありがたいです。

また、探究授業の YouTube もありがとうございました。どんな所へどんな風に行ったのかとてもよく分かりました。

今後も余裕があればいいので、動画を作っていたいただけるととても嬉しいです。

たくさんの先生方に引率いただき、それぞれのハテナが見つけれられたようですね。

先生方で人数が足りない際は、無理せず保護者にもフォローの募集を 부탁드립니다ね。

P.N「みっけ」さんより

みっけさん、いつも素敵なお便りをありがとうございます。

日々の小さな変化や成長を共に喜ぶことが、とても嬉しいです。

周りの大人たちが子どもたちの成長を共に喜び合える関係が作れたならば、それは子どもにとって大きな幸せなのだと思います。

「ほめる」の語源は、稲穂の「穂」という文字にあるといえます。

秀でているもの、優れているものという意味もありますが、もともとは「互いに祝福し、神に感謝する」意味で使われた言葉だそうです。

「ほめる」というと、良い評価を与えることと思いがちですが、そうではないのかもしれませんが。

素晴らしいことをともに喜び合う方が、本来の「ほめる」に近いのではないかと考えています。



人は、なかなか自分の変化には気付けません。

成長や変化はゆったりとしたスピードで進むため、ともすれば何も変わっていないようにも感じがちです。

だからこそ重要なのは周りからの声かけです。

変化は、自分より周りの方が往々にしてよく分かります。

以前読んだある本の中に、「子どもへかける大切な言葉」という項がありました。

その中で、「最も大切な言葉」として紹介されていたものがあります。

簡単ですが、私は読んで妙に納得させられました。

それが、「成長したね」という一言です。

「すごいね」「がんばったね」という、その瞬間瞬間を切り取った褒め言葉も意味があるけれど、一番大切なのは、その子の変化や成長を認めてあげる「成長したね」という一言なのだそうです。

ですから、教室では誰かをほめる時「成長したね」という言葉を積極的に使うようにしています。

そして、それをみんなで喜び合うようにしています。

「〇〇くん、成長したね。先生も嬉しいよ。」

という具合にです。

最近では、こうした言葉を教室で伝えた時に、自然と子どもたちから拍手が起きるようになってきました。

そういえば昨日の放課後。

各ルートごとにチェックアウトをしている時に、上級生の4年生が私の所にこんなことを言いに来てくれました。

「先生、最近1年生すごいんですよ。ちゃんとならべるようになってきて、バスターチャーさんにもきちんとおじぎして挨拶できるようになってきたんです。すごい成長してるなって思いました。」

大人だけでなく、先輩もそうやって成長を喜んでくれていることが何よりありがたく、感激しました。

嬉しかったので、それを言いに来てくれた4年生の写真も撮りました。



成長や変化に気づいてくれる方が周りにいること。

そして、それを言葉にして伝えてもらえること。

その成長をお互いのに喜び合えること。

とてもシンプルなことのように、でもこれこそが子どもたちの成長を支える何よりの追い風になるのだと思います。

ご家庭で気づかれた変化や成長、また教えて頂けると嬉しいです。

また、みっけさんの「人数が足りない際は、無理せず保護者にもフォローの募集をかけてくださいね。」との言葉にも大変励まされました。

今後、この SOLAN を創り上げていく上に置いて、保護者の方々に様々な形でお力を借りる機会が増えてくると思います。

温かいエールを、誠にありがとうございます。

また直接お話させて頂ける機会を、心より楽しみにしております。

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)

(文責：渡辺道治)